

祝

念願の日本遺産 広域認定

社会全体として、新型コロナウイルス感染の第2波、第3波が懸念される中、外 国の方はもちろんのこと、国内の観光客誘致もこれまでのようにはいかない状況 が続くことが予想されます。しかし、このような時こそ、私たち は現状を真摯にとらえ、魅力ある地域づくりに努め、時勢を見ながら、徐々 に来訪者を迎えていく準備 をしなくてはなりません。

そのためには、福岡県と 関係 7 市町が一体となり、地域の人々と共に様々な施策



善一田古墳群（大野城市教育委員会提供）

【今後への期待】

を展開していくことに加え、
拡充された「西の都」を支
える地域の人々が、今まで
以上に故郷を誇りに感じ、
今回拡充された日本遺産を
広域ブランドとして発展さ
せていく視点が大切ではな
いかと考えています。



「西の都」の想定範囲

Heritage)は、文化庁が地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定し、支援していくものであります。

今回追加された構成文化財11件には、大野城市の「牛頸須恵器窯跡（うしくびすえきかまあと）」「御笠の森」「善一田（ぜんいちだ）古墳群」をはじめ、筑紫野市の「次田温泉（すいたのゆ）二日市温泉」なども含まれ、特に「次田温泉」や「善一田古墳群」などは、NHKで大きく取り上げられるなど、マスメディアの注目を集めました。

現在の二日市温泉に至ります。かつては「**次田温泉**（すいたのゆ）」とも呼ばれ、大宰府の官人や寺院の僧侶などが疲れを癒すとともに、社交の場でもあります。した。
次田温泉からさらに南を望むと、福岡・佐賀県境にある基肄



牛頸須惠器塗跡出土「和銅六年」銘ヘラ書き須惠器

乙金地区にある善一田古墳群は6世紀から7世紀にかけて築かれた古墳群ですが、一帯の古墳群からは新羅土器や「奈」の字をへラ書きした須恵器が出土するなど、海外からもたらされた先進文化を見る事ができます。善一田古墳群は、大宰府が置かれ、国際交流都市として発展した「西の都」が、前代からの盛んな对外交流という基礎の上に成り立つていたことを示しています。

そんな善一田古墳群から見下ろす市街地の中に、御笠の森が静かに佇んでいます。万葉集筑紫歌壇の一人、大伴百代が詠んだ恋の歌「念はぬを思ふといはば大奇なる（御笠の森の神）知ら

「西の都」では、国家による外交・交易も行われました。外国使節（賓客）は博多湾岸の筑紫館（鴻臚館）から、官道を大宰府へ進み、水城の西門をくぐり、さらに進んで推定羅城門から朱雀大路を北上し、大路沿いの客館に入りました。そして威儀を整え、大宰府政庁へ向かいました。政庁では、樂が流れるなか儀礼

一三〇〇年前、日本の西、九州には「大君の遠の朝廷」である大宰府が置かれ、「天下之一都會」と呼ばれた都があり、日本の宮都や海外からの先進文化で彩られていました。

この地には、六六三年の白村江の戦いの後に、水城や大野城、基肄城など、百濟の宮都を模した要塞が築かれました。遣唐使として東アジアの先進都市、唐・長安城をみた粟田真人が筑紫に赴任し、それら前代の城塞を巧みに取り込み「西の都」を築きました。中心に、約2キロメートル四方の碁盤目の街区を設けた本格的な都城で、大宰府政庁などの役所や、官人志望者の養成機関、迎賓館、寺院などが建ち並び、四方へ広がる官道を外國使節や商人、舶来品が行き交

やもてなしの宴が行われ、日本・唐・新羅の最高級食器により豪華な食事が振舞われました。

文化的素養を持つた人々多く訪れ、新たな文化も花開きました。大宰帥・大伴旅人邸で開かれた「梅花宴」では、唐から持ち込まれた梅の花をめでつつ和歌が詠されました。また、万葉歌人たちは、大野城や基肄城、次田温泉（二日市温泉）をはじめ筑紫の風景に心を寄せて歌を詠みました。

また、觀世音寺には、都や大陸文化の影響を受けた彫像や、外国使節をもてなす舞楽の面、菅原道真が漢詩に詠んだ梵鐘など多くの文物が集積しました。

このように、「西の都」は東アジアの先進文化と日本の文化とが行き交う場所でした。

【認定されたストーリーの概要】